

令和7年度「市議会議員と話そう（袋井高等学校）」の実施結果

1 概要

令和元年度から、市議会に関心を持ってもらうこと、政治・行政・選挙等に対する理解を深めてもらうこと等を目的として、高校生との意見交換会を実施してきた。

本年度も、市内3校（袋井特別支援学校高等部、袋井高等学校、袋井商業高校）の生徒の皆さんとの意見交換会「市議会議員と話そう」を実施した。

袋井高等学校は、学校の総合探究の授業の一環として、議員との意見交換会を開催したため、開催結果を報告する。

2 開催場所、日時、参加者

学校名	実施日時	開催場所	生徒	議員
袋井高等学校	12月17日（水） 13:20～14:30	学校 講義室1B	16人 （1年生）	12人

3 実施内容

(1) 議会の活動報告

議長が市議会の活動報告と主権者教育についての講話を行った。

(2) 生徒と議員とのグループワーク及び発表

総合探究のテーマごとの4つのグループに分かれ、各グループに議員が2人（1グループは3人）参加して意見交換を行った。

ア 意見交換テーマ

1班：公共交通機関について（袋井高校の通学バスの改善）

2班：左利きにも優しい社会

3班：女子高生発袋井市の魅力発信（若者が遊べる場所について）

4班：小学生の体験学習の推進について（体験学習の質の保証について）

イ グループワークの進め方

(ア) 生徒は、探究活動の中間発表を行い、それを受けて感想や質問を受けた。

(イ) 探究活動の改善点や行き詰っている点について意見交換を行った。

(ウ) 自分たちのテーマを具体化するための方法について意見交換を行った。

- (エ) グループトークの結果を他のグループと共有するために、模造紙に意見のまとめを行った。
- (オ) グループごとに生徒が発表を行い、参加者で共有をした。

4 意見聴取結果及びアンケート結果

グループごとの意見聴取結果及び参加者のアンケート結果は別紙のとおり

5 総括

今回は、昨年度に引き続き、学校の総合探究の活動の中に、議員との意見交換会を取り入れていただいた。別紙のアンケート結果によると、参加生徒から概ね高評価をいただけたと言える。さらには、「市議会議員と話そう」に参加したことで、参加者全員が「議会・議員に対する関心が高まった」との回答であったことから、生徒の皆さんにとっても、市議会にとってもよい機会となったと言える。

生徒の皆さんは、自分たちが活動を通して考えてきたことを発表し、それらを受けて議員と意見交換をすることで、新たな気付きを得るなどそれぞれの探究活動に有益な時間となったと思われる。今後の皆さんの活動が新たなステージに進み、想いが実現することを期待します。

「令和 7 年度 市議会議員と話そう」意見聴取結果表

日 時	令和 7 年12月17日（水） 13:20～14:30		
場 所	袋井高等学校 講義室 1 A		
テ ー マ	公共交通機関について（袋井高校の通学バスの改善）		
グループ	1	議 員 名	兼子靖基 高橋美博 太田裕介（アドバイザー）
高校生から出された意見			
【グループ内で出された意見を記載】			
<グループワーク 1> 探究活動の中間発表			
袋井高校の通学バスの改善			
<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけ、バスの本数が少なく時間に合わない⇒地方に多くある問題の解決 ・ペルソナーターゲットは駅から本校までのバス利用者遠く困っているひと。 ・解決したい困りごとは、バスの時刻を変え、利用者がより利用しやすくする。 			
<解決方法>			
①バスの本数を増やす。タイミングを合わせ待ち時間を減らす			
②バスの時刻を変更し、乗りやすくする。			
<アクション>			
① 1 年生85名からアンケート回収。結果は、バスを利用する24%、利用するのは雨の日62.5%、バスについて思うことは、待ち時間が長い、時間帯が合わない、本数が少ないなど。			
②市役所担当課を訪問し、意見交換。結論は高校生のために変更は「厳しい」			
理由—もともと中東遠総合医療センターへの通院者向けの目的。民間でありバスの本数を増やすにはお金が必要。実現のためには毎日の利用者を増やすことが必要。			
<グループワーク 2> 改善点や行き詰っている点など			
<グループワーク 3> テーマを具体化するための方法			
⇒<グループワーク 4> まとめ			
バスの必要な理由や要求を明確に示すことが必要では			
⇒家から駅、駅から学校と自転車のダブル通学で大変。荷物が多いと坂が大変でバスを利用する。			
バス停から学校が遠い。（愛野公園入口のバス停に雨よけが欲しい。路線の変更も必要。）			
袋井高校へのアクセスが悪く磐田西などに行き、結果生徒数が減少する。			
民間経営のバスは利用者を増やすこと必要。利用者を増やす方策は。			
⇒地域住民の利用を促す方策も必要。			
本数を増やしてほしい。必要な理由を明確にすることも必要では			
⇒帰りの時間は部活が終わるのは6時半から7時となるがバスの最終便は5時台までしかない。			
電車の到着時刻とバスの出発時刻問わない。袋井駅・愛野駅ともに1本しかなく合わない。			
電車の定期代に加えてバス代1回200円の負担は高くて大変。			
土日の通学もあり必要となる時も。袋井市のスクールバスが活用できないか。			

「令和 7 年度 市議会議員と話そう」意見聴取結果表

日 時	令和 7 年12月17日（水） 13:20～14:30		
場 所	袋井高等学校 講義室 1 A		
テ ー マ	左利きにも優しい社会		
グループ	2	議 員 名	夏目幸彦 近藤正美
高校生から出された意見			
【グループ内で出された意見を記載】			
<p><グループワーク 1> 探究活動の中間発表 （生徒たちが予めグループで探求した内容を発表する）</p> <p><探求のきっかけ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスメイトなど身近な人に左利きの人が結構いる。日本人には10%程がいることが分かった。16HRにも42人中4人が左利きで、いろいろな要因で困っているという話を聞き、「左利きの人がもっと暮らしやすい社会にするにはどうしたらよいか」……それが探求の理由である。 ・右利きの人中心の道具が多く、使えない不便さを感じる。 ・価値観の違いを感じ、そのために精神的に苦痛を感じることが多い。 ・器用とか感性があるとか、左利きへの過度な期待を感じ、負担に思うことがある。 ・クラスでのアンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ；左利きの不便や不都合は、駅やバスの改札、はさみ、リングファイル、手元が見づらい、チャークの音などがあつた。 ；左利きの人への印象や感想は、憧れ、カッコいい、器用などがあつた。 ；課題は、右利きと左利きとではお互いに意識の差がある。何も思わない人も一定数いた。 <p>以上の点から、 ⇒『左利きの人がもっと暮らしやすい社会にするには』というテーマを設定した。</p> <p><グループワーク 2> 改善点や行き詰っている点など （生徒たちが望む改善点等の発表に議員が質問や助言などをする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活用品には右利き用の道具が圧倒的に多く、左利き用の道具が少ないこと。 ・そのために不便さを感じたり、価値観の違いを感じてしまう。 ・精神的に苦痛となることも多くある。 ・左利きの人が右利きの人に過度に期待されて、「期待に応えなくては」という感情に駆られてしまうことがある。 ・左利きの人の大変さや困りごとを理解してもらえないことがある。 ・左利きの人には少数派であるから、弱点も知っているし、利点も知っている。 <p><グループワーク 3> テーマを具体化するための方法 （生徒たちの考えるテーマを改善のために具体化する方法について議員と意見交換する）</p>			

- ・「左利き体験会をやってみよう」⇒ そうすれば左利きの大変さが分かってもらえるのではないかな。
- ・「左利き用の商品を開発して販売してみよう」⇒ いいアイデアが生まれて課題解決に役立つかもしれない。

<グループワーク 4>まとめ

(1~3を通して生徒たちと議員で具体的な行動指標を共有する)

⇒ ゴールは<左利きの人の生きづらさを少しでも軽減すること>である。

そのために

- ・左利きで困っている人たちがいることを理解して、何らかの手立てをしてあげる必要がある。
- ・左利き体験会（例えば、右利きの人に日常的に使う動作を左手で実際にやってもらい、左利きの大変さを知ってもらうこと）や、左利きの人に必要な商品開発と販売（例えば、右利き用のはさみを左利きの人でも使いやすいようにするためのアタッチメントを作る）は大変いいアイデアであると助言した。両利きの道具の開発もおもしろいのではと提案した。
- ・はさみ、お箸、チョークなど左手の人が日常的に使う動作を、実際に右利きの人にやってもらって少しでも大変さを理解してもらう。そして少しでも配慮をしてもらえたらいい。
- ・アンケートで「何も思わない」と回答して人に気持ちの変化があればいい。
- ・まず身近なところで身近な人に理解してもらい、精神的な苦痛を少しでも和らげたい。

<その他>

(生徒たちの取り組み姿勢から見えた感想)

- ・生徒たちの日常生活や学校生活の中での困りごとや課題に、真剣に取り組む姿勢と切実さになんとかしてやりたいと思った。
- ・日常生活の中での大人の気づきが少し弱い点がよく分かった。
- ・右利きの利点と左利きの利点をお互いに認め合い、お互いに利用し合って補い合うことができればもっと過ごしやすい環境が作れるのではないかと思った。
- ・学校でも左利きの人が使えるように道具の用意をしてほしい。(はさみ、包丁、おたまリングファイルなど)
- ・教室にこんな配慮があればもっとよい。(座る位置、食事の席、チョークの音消し?…これは無理かな)

以上

「令和7年度 市議会議員と話そう」意見聴取結果表

日 時	令和7年12月17日（水） 13:20～14:30		
場 所	袋井高等学校 講義室1A		
テ ー マ	女子高生発袋井市の魅力発信（若者が遊べる場所について）		
グループ	3	議 員 名	鈴木功三（ファシリテーター）・村井勝彦（記録員）
高校生から出された意見			
【グループ内で出された意見】			
<グループワーク1>探究活動の中間発表			
1 女子高生悩み			
「袋井市内に遊びに行くところがない。ご飯を食べに行くところがわからない。」			
2 探求のきっかけ			
女子高生13人に「放課後遊ぶ場所アンケート：ノブレスパーク袋井・イオンモール袋井店・袋井コミュニティセンター」があげられたが、13人のうち、「あまり知らない」と回答した人が23%との結果であったことから、この問題に関して解決する必要がある。			
3 解決したい困りごと			
他市からの通学者も多く、市内に「どのような商業施設があるか」、「見やすくわかりやすい位置図が欲しい」、「放課後気軽に行ける場所を知りたい」などの項目があげられる。			
4 課題の解決方法			
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の情報をまとめたスマホアプリを作る」 ・ スマホアプリに搭載するもの：「アンケート調査結果に基づくレビューを設ける」「マップの搭載」「歩数計やカロリーの表示」など。 			
5 探究活動を進めるうえでの悩み			
女子高生にあったアプリケーション			
<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・ビジュアルの開発 ・便利さの追求：機能の取舍選択 ・市内商業施設に行く方法（交通手段等） 			
6 探求のゴール			
多くの女子高生が袋井の魅力について知り、袋井の良さを発信する。			
<グループワーク2>改善点や行き詰っている点など			
<ul style="list-style-type: none"> ・アプリを作成する場合、現状においては制限があり、全てを網羅できない状況である。 ・店舗以外の場所やスポット等についての情報が少ない。 ・情報や意見等について、上級生からの情報を得ていない。 ・女子高校生にとっては、カロリー摂取に関する関心が高いことから、1日のカロリー摂取量等が表示されるアプリが役立つのではないか。 			

＜グループワーク 3＞テーマを具体化するための方法

- ・アプリ作成にあたっては、女子高校生のニーズに合ったアプリを作成する。
- ・アプリ利用については便利さや興味を引くアプリとなるよう探求していく。
- ・商業施設や店舗に加え、情報収集やアンケートに生かすことができる「QRコード」の利用も視野に入れる。
- ・施設利用やスポーツ活動によるポイントが付与される情報も有効ではないか。

＜グループワーク 4＞まとめ

- ・情報提供にあたっては、女子高校生独自のアプリの検討を行う。
- ・現在、袋井市では18歳以上を対象とした「健康ウォーク事業」を展開しているが、この事業について「（仮称）高校生健康ウォーク事業」を袋井市に提案することを検討する。

＜その他＞

- ・高校生の健康づくりも本市にとって重要な施策であることから、「（仮称）高校生健康ウォーク事業」に関して、袋井市担当課と高校生等の面談し、現状の健康づくり政策や新たな事業の可否等について説明するとともに、高校生の意見等を聴取し、取り組みを進めてはどうか。

＜意見交換後の取組＞

12月17日の意見交換会での結果を踏まえ、現在市で実施している「#2961 ウォーク」の担当課（健康未来課）職員と高校生が面談し、意見交換を行った。

1 日時

令和8年1月29日（水）午後3時30分から午後4時15分

2 場所

袋井高等学校

3 内容

- ・健康ポイント事業（現在の#2961 ウォーク）の概要説明
- ・（仮称）高校生健康ウォーク事業の提案について など

「令和7年度 市議会議員と話そう」意見聴取結果表

日 時	令和7年12月17日（水） 13:20～14:30		
場 所	袋井高等学校 講義室 1 A		
テ ー マ	小学生の体験学習の推進について（体験学習の質の保証について）		
グループ	4	議 員 名	八木 伸太郎 安間 亨
高校生から出された意見			
【グループ内で出された意見を記載してください。】			
<グループワーク 1>探究活動の中間発表			
<p>本探究活動の出発点は、小学生にさまざまな体験機会を提供したいという思いである。ペルソナは、体験活動の少なさに不満を感じている袋井東小学校の4・5年生であり、地方の小学生は体験が限られることで固定概念や一定の価値観にとらわれやすいという課題を解決したいと考えた。</p> <p>そのため、農業体験への参加希望アンケートを実施し、参加者を募集するとともに、茶葉農家への訪問（約15名程度）を計画している。当日は、農業体験・見学・質問の機会を設ける予定である。</p> <p>現時点における成果としては、農業体験の希望アンケートの作成を行ったほか、実際に袋井南小学校（※袋井東小学校から変更）を訪問し調査を実施した。訪問時の把握事項として、小学生にとって高校生との交流が非常に貴重であることや、校内では講師等の外部人材を招いた活動が多いという実情を確認できた。</p>			
<グループワーク 2>改善点や行き詰っている点など			
<p>① 高校生ならではの活動の提供が不十分である → 高校生の特性を活かしたプログラムがまだ十分に打ち出せていない</p> <p>② 体験の種類が限られている → 小学生が参加できる体験コンテンツが少なく、多様なニーズに応えきれていない</p> <p>③ 屋外での活動が実施しにくい → 交通費の予算不足や安全面（交通事故・事件など）の懸念から、外出型の活動が制限されている</p> <p>④ グループでの共同活動が減少している → 他者と協働する機会や仲間同士で体験する場が減り、交流や学びの幅が狭まっている</p>			
<グループワーク 3>テーマを具体化するための方法			
<p>① ② ③ 共通の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高校生による部活動体験の提供 → 高校生自身の「得意」や「好き」を活かし、部活動を通じて高校生と交流できる体験学習を提供し、その過程で部活動の魅力も伝えていく 			

- 茶道部との連携による袋井茶のプロモーション
→ 茶道体験の実施や地元の茶文化を高校生の視点で伝えることで、地域資源の魅力を効果的に発信できる
 - 文化祭前の体験実施による興味喚起
→ 文化祭前に開催することで、小学生が文化祭へ関心を持ってもらう機会とする
- ② 体験プログラムの多様化に向けて
- 袋井市手揉手保存会への協力依頼
→ 地元の手揉み茶の伝統を体験できるプログラムを提供する
 - スパークリングティー「bodhi」の試飲体験
→ 新たな飲茶スタイルの体験を通じて、幅広い興味喚起を図る
- ③ 屋外活動の実施に向けて
- 袋井高校のスクールバスを活用するための交渉
→ 安全かつ効率的な移動手段として、学校との調整を進める
- ④ グループ活動の活性化
- 既存の活動をグループ化し、協働の場を増やす
→ 現在ある活動をグループ単位で統合・整理し、共同で取り組む仕組みを強化する

<グループワーク 4>まとめ

本グループでは、小学生における学校外での体験活動が不足しているという課題意識を共有し、外部団体との連携を含めた高校生の部活動体験などを活用した「体験プログラムの提供」を中心に据えていくと結論に至った。

『令和7年度 市議会議員と話そう』アンケート結果

【袋井高等学校 参加生徒16人】

1 学年 1年 16人(100.0%) 2年0人(0.0%) 3年0人(0.0%)

2 住所地 袋井市内 9人(56.3%) 袋井市外 7人(43.7%)
(磐田市:5人、掛川市:1人、菊川市1人)

3 『市議会議員と話そう』全体時間の長さはどうでしたか。

長い ちょうどいい 9人(56.3%) 短い 7人(43.7%)

考察	9人(56.3%)が「ちょうどいい」と回答した。一方で「短い」と感じる生徒も7人(43.7%)であり、もう少し対話時間があるとよいという意見もあったことから、限られた時間の中で有意義な時を過ごせたと感じていただけたものと思われる。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 議会の活動状況を理解できましたか。

できた 16人(100.0%) できなかった 0人(0.0%)

考察	全員が「理解できた」と回答した。議会の活動報告が、皆さんに理解していただくことができたと評価できる。
----	----------------------------------------------------

5 『市議会議員と話そう』は満足しましたか。

満足 14人(87.5%) 不満足 1人(6.3%)

考察	14人(87.5%)が「満足」と回答した。探究活動の一環として生徒が事前に取り組んできたテーマであることから、活発な話し合いとなったと思われる。
----	--------------------------------------------------------------------------

6 『市議会議員と話そう』に参加して議会・議員に対する関心は高まりましたか。

高まった 16人(100.0%) 高まらなかった 0人(0.0%)

考察	全員が「高まった」と回答した。グループワークで議員とのコミュニケーションが図られた結果と思われる。
----	---------------------------------------------------

7 議員と話す時間の長さはどうでしたか。

長い0人(0.0%) ちょうどいい 8人(50.0%) 短い 8人(50.0%)

考察	8人(50.0%)が「ちょうどいい」と回答し、また8人(50.0%)が短いと回答した。短く感じる生徒が半数いることから、もう少し対話の時間を取れるとよいと思われる。
----	------------------------------------------------------------------------------------

8 意見交換会の進め方はどうでしたか。

- 満足 16人(100.0%) 不満足 0人(0.0%)

考察	全員が「満足」と回答した。 今回のグループワークの進め方は、探究活動の一環としてうまく活用されたと思われる。
----	-----------------------------------------------------------

9 今後、このような機会があれば参加したいですか。

- 積極的に参加したい 10人(62.5%) 指示があれば参加する 6人(37.5%)
 参加しない

考察	10人(62.5%)が「積極的に参加したい」、6人(37.5%)が「指示があれば参加する」と回答した。自ら積極的に参加したくなるような、より魅力的な運営の検討が求められる。
----	----------------------------------------------------------------------------------------

10 『市議会議員と話そう』を来年度以降も行う場合、下級生に参加を勧められますか。

- 積極的に勧めたい 15人(93.8%) 一応、勧める 1人(6.2%)
 勧めない 0人(0.0%)

考察	15人(93.8%)が「積極的に勧めたい」、1人(6.2%)が「参加を進める」と回答した。参加した上での生徒の皆さんの評価は高かったものと思われる。
----	----------------------------------------------------------------------------

11 あなたは、袋井市に住み続けたい(住みたい)と思いますか。

- 『市議会議員と話そう』に参加する前から住み続けたい(住みたい)と思っていた
4人(25.0%)
 『市議会議員と話そう』に参加して住み続けたい(住みたい)と思った 1人(6.3%)
 住み続けたい(住みたい)とは思わない 1人(6.3%)
 現時点ではわからない 9人(56.3%)

考察	4人(25.0%)が「住み続けたい(住みたい)」、9人(56.3%)が「現時点ではわからない」と回答した。 参加者が全員1年生であることから、今後の進路を検討する際に考えることと思われる。
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------

12 本年度に行われた選挙(4月:市議会議員選挙)は、投票しましたか。

- まだ選挙権(満18歳以上)がなかった 16人(100.0%)
 選挙権はあったが、投票はしなかった
 投票した

考察	参加者が全員1年生のため、全員が「まだ選挙権がなかった」と回答した。 投票に結び付くように、今後も啓発が必要である。
----	---------------------------------------------------------------

13 『市議会議員と話そう』に参加して、今後の選挙で投票に行こうと思いますか。

まだ選挙権がない方は、選挙権を得たら投票に行こうと思いますか。

『市議会議員と話そう』参加前から投票に行くつもりであった 11人(68.8%)

『市議会議員と話そう』に参加して投票に行こうと思った 3人(18.8%)

投票には行かないと思う 0人(0.0%)

現時点ではわからない 2人(12.4%)

考
察

14人(87.6%)が「投票に行く」と回答した。
10代の投票率が非常に低いことを考えると参加者の意識は高い。

14 投票率の低迷等を含め、選挙に関して思うことを自由に御記入ください。

- ・若者層の投票率の低迷が問題と感じる。若者の声をより通しやすくするためにも、広報に力を入れていけたらよいと思った。
- ・若者への行いを増やしていけば、もっと若い人も選挙に参加すると思う。投票しに行きたいと私は思う。
- ・政治に興味があるので、積極的に選挙に参加したいと思っている。
- ・若者は、高齢者に比べて投票率が低いため、私が選挙権を得た際には、積極的に投票し、周りにも呼びかけ、よりよい社会を作りあげていけるよう、貢献していきたいと考えている。
- ・選挙はどういったものなのか、若者は理解が不十分だと思う。政策を簡単に分かりやすくしたものをポスターにして貼ると、投票率が上がると思う。
- ・選挙のことがあまりよく分からない。もっと広報活動に力を入れてほしい。
- ・積極的に行きたいと思った。友達が行かないと言っていたら、誘おうと思う。
- ・積極的に投票に行きたい。
- ・期日前投票の規制緩和
- ・現状では、投票へのメリットを感じにくいと思う。それにより感じるべき義務感が薄れてきていると思う。「実感」が投票率回復に重要であると感じる。
- ・若者の選挙に対する関心の低さがとても問題であると思う。広報活動によって、意識を高められるようにしたい。
- ・若者の関心の低下が大きく、自分事だと思えることが少ない人が多い。

15 『市議会議員と話そう』に参加して気づいたこと、思ったこと、今後の開催に向けて

参考にしてもらいたいこと、市議会議員に言いたいこと等、自由に御記入ください。

- ・議員さんとお話しをする中で、自分があまり袋井市に詳しくないと思うとともに、もっと袋井市を身近な存在にしていきたいと感じた。
- ・時間が短く、最後の方では焦ってしまった。
- ・私たちには思いつかなかった意見が出て、話がとても進んだ。
- ・時間が短く、自分の言いたい意見があまり言えなかった。
- ・最初は緊張していたが、議員の皆さんがとても優しく、私たちのペースや意見に合わせてくれたため、よりよい話し合いへと繋げていくことができた。
- ・貴重な時間を費やしていただいたことに感謝します。
- ・むずかしい方かと思っていたが、高校生の意見を積極的に聞いていただいてとてもうれしかった。また、このような機会を増やしてほしい。
- ・自分たちがやりたかったことが、本当にできそうでうれしい。
- ・社会には左利きの人がいることを知ってほしい。
- ・少し時間が短いと感じた。とても楽しく活動ができ、今後もこのような場を作ってほしい。

- ・とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・自分たちでは思いつかないようなアイデアを出すことができた。
- ・楽しかったです。
- ・とても話しやすく、自分たちの話や意見を引き出してくれる存在だったと思う。
- ・参考になることがたくさんあった。
- ・もっと時間をとって欲しいと思った。

<総括>

「市議会議員と話そうは満足しましたか」の問いに14人（87.5%）が「満足」と回答し、また「市議会議員と話そうに参加して議会・議員に対する関心は高まりましたか」の問いに、参加者全員が「関心が高まった」と回答したことから、参加者の評価は高く、高校生にとっても、議員にとっても、お互いに意見交換を行う有意義な場であったと言える。

選挙に関する自由意見では、「選挙はどういったものなのか、若者は理解が不十分だと思う。」など、今回の会が選挙について考えるきっかけとなったことから、引き続き主権者教育をする場が必要であると考えられます。

また、参加して気付いたこと等については、「高校生の意見を積極的に聞いていただいてとてもうれしかった。また、このような機会を増やしてほしい。」「自分たちがやりたかったことが、本当にできそうでうれしい。」など好意的な意見も多く、今後もこのような意見交換の機会が求められていることが分かりました。